



まちぢから協議会（茅ヶ崎市）

## 行政と地域が一体となってつくる新たなコミュニティ

### ■「地域の力」の結集

茅ヶ崎市では、これまで自治会をはじめ社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、青少年育成推進協議会などの各種団体が地域活動の担い手として取り組んでいましたが、少子高齢化、地域への帰属意識の低下などにより、何十年も続けてきたイベント等が開催できないといった問題が増えてきました。そこで、地域が一体となって課題に取り組むための新たなコミュニティ

として「まちぢから協議会」が設立されました。当初は、新たな取組みということもあり、各地区から戸惑いの声もありましたが、現在では、市内12地区で「まちぢから協議会」が設立されており、市と協働で地域課題の解決に向けた活動が進められています。

### ■地域の多様なプレーヤーとの連携

協議会では、自治会をはじめ、福祉や農業など様々な分野で活

躍している団体や地域の方々との地域担当職員が集まる「協議の場」を開催し、情報共有や課題解決に向けた取組みを話合っています。例えば、そこで生まれた取組みの一つである「地域の居場所づくり」では、老人クラブの方が一人暮らしの高齢者を誘ったり、農家の方が野菜を寄付してくれるようになりました。さらには、運営をサポートするボランティアの方々も増えてきています。また、行政からは財政的な



### 一言アドバイス

前例踏襲だとおもしろくない。前回以上のものにして考えて工夫することが大切。それがやりがいや達成感につながる。



まちぢから協議会連絡会  
会長 後藤 金蔵さん

### 成功のコツ

- ・地域の各種団体が一体となって課題解決に取り組める仕組み
- ・地域と行政をつなぐ「地域担当職員」と「想いを持った地域リーダー」の存在

## コミュニティ

サポートを受けるなど、地域の多様なプレーヤー同士の連携が協議の場を介してどんどん広がっています。

自分たちでできること、行政の力を借りて取り組むことをしっかり議論し、確に対応するのが「まちぢから協議会」の仕組み。その根底には、地域の課題を解決しながら「地域の力」を底上げし、地域を活性化したいという一人一人の思いがあります。

### ■組織が生み出した効果

こうした各地区の「まちぢから協議会」の活動支援と相互の連絡調整を目的として発足したのが各地区の代表者で構成するのが各地区の代表者で構成するのが「まちぢから協議会連絡会」。この連絡会の会長である後藤 金蔵さんは「まちぢから協議会ができてから、これまで関わりのなかったNPO法人と連携して防災訓練を実施するなど、関われる団体が多くなったと感じます。さらに、各種団体の協力により地域に広く情報提供が可能になり、イベントの集客にもつながっています。地域のみんなが手を

取り合って取り組んだ方が解決できることも多いし、何より地域力の向上につながると思います。」と話します。

連絡会の会長であると同時に、湘南地区まちぢから協議会の会長でもある後藤さん。今後は、情報伝達手段にスマホの活用など考えているそうです。

「地域の力」を結束して課題解決に取り組む。そうした「まちぢから協議会」の活動が、茅ヶ崎市内のコミュニティの活性化に大きく貢献しています。